

新聞・雑誌から見る現代日本

しんぶん ざっし み げん だい に ほん

■ 第30回 ■

源氏物語千年紀によせて

げんじものがたりせんねんき

このコーナーでは、新聞・雑誌の記事を通して現代日本事情の紹介をするとともに、日本語を教える先生方が新聞・雑誌の記事などの生教材をどうやって教材化し、中・上級の日本語の授業にどう活用できるかを提案していきます。今回は源氏物語の翻訳者に関する記事を取り上げ、実際の教室活動の流れにそって質問と記事を提示しました。

「読む前に」の部分は、記事に関する背景情報を提供することで、学習者がいきなり記事を読むのではなく、読む準備ができるようにすることを目的にしています。「読む前に」の質問は、学習者が話題に関してどんな情報やイメージを持っているかを引き出したり話し合ったりすることで、記事を読む意欲を高めることを狙っています。

「読もう」の部分は、ざっと目を通して大意を把握したりキーワードを取り出したりする大まかな読み方や、表現や構文を押さえて読む精密な読み方が含まれます。この部分の質問は、読み進めていく過程で必要なストラテジーの意識化を狙っています。

「読んだ後で」の質問は、学習者が読んだ記事の内容を整理し、自分の頭の中に作り上げたイメージを表現したり記事への反応を他の学習者と交換したりできるようにすることを目的にしています。

読む前に

このコーナーも今回で第30回を迎えました。この日本語教育通信は1年に3回の発行ですから、第33号(1999年1月発行)に第1回が掲載されて以来、丁度10年ということになります。10年一昔という言葉もありますが、一つの区切りではあります。

ところで、この2008年は、10年の区切りなど足元にも及ばない大きな区切りの年です。既によくご存知の方もいるかと思いますが、今年は『源氏物語』(『源氏』)が書かれて丁度千年の年なのです。この「源氏物語千年紀」を記念して、京都を中心に各地で『源氏』の講座、音楽会、展覧会、など色々な行事が行われています。また、新聞や雑誌で特集が組まれています。そればかりでなく、『源氏』ゆかりの地を訪ねるツアーが組まれたり、記念のお菓子が販売されたりもしています。

このことは、『源氏』が日本文学においていかに大きな存在の作品であるかを物語っています。また世界的にも名作とされ、現代日本語への訳は言うに

及ばず多くの言語にも翻訳されています。光源氏を中心とする大勢の登場人物と、その巧みな人間関係と心理の描写。このような大作が千年も前に書かれたこと自体が驚きですが、同時に科学技術が発達した情報の時代にあっても、人の心の動きや感情はいつの時代も同じであることを教えてくれます。

この『源氏』を研究したり教えたり翻訳したりして今も深く関わっている人々が日本の内外にいます。今回は、5月7日付朝日新聞夕刊(大阪版)の連載欄に取り上げられた『源氏』の翻訳者についての記事を読みましょう。

質問1: みなさんは、翻訳することがありますか。翻訳するとき、どんな点が難しいですか。まず、隣の人と話し、次に、グループで話し合みましょう。

質問2: 日本の古典文学作品で翻訳されたものを読んだことがありますか。その特徴やおもしろさについて話し合ってみましょう。

朝日新聞（夕刊）2008年5月7日「ニッポン人・脈・記 千年の源氏物語⑩」
あさひ しんぶん ゆうかん ねん がつ か じん みやく き せんねん げんじものがたり
『日本語教育通信』2008年9月「新聞・雑誌から見る現代日本」
にほんごまよういっくつうしん ねん がつ しんぶん ざっし み げんだい にほん
第30回に掲載している記事は、著作権の関係で掲載できません。
だい かい けいさい きじ ちよさくけん かんけい けいさい

読もう

質問3: 3人の翻訳の出版はいつですか。古い順に名前と出版の時期を書いてください。

質問4: 記事に紹介されている3人に共通する点は何ですか。記事の内容を参考に三つあげてください。

質問5: 源氏物語の翻訳で3人がそれぞれ工夫したことは何ですか。

質問6: 見出しに「世界に響く 人間描写」とありますが、源氏物語の人間描写は、この3人にはどのように響きましたか。その答えとなる部分を記事の中から探して書いてください。

質問7: 本文の内容と合っているものはどれですか。番号で答えてください。

- (1) 3人は、大学生のときに初めて源氏物語に出あった。
- (2) 現在、3人は大学の教授である。
- (3) カレル・フィアラは、源氏物語以外にも日本の文学作品を翻訳した。
- (4) ジャン・エルキンの翻訳は、日本の古典文学に限られている。
- (5) ロイヤル・タイラーは、源氏物語を初めて英語に全訳した。

質問8: この記事で3人の研究者を紹介することで筆者が一番伝えたかったことは何ですか。その筆者の意図を一番よく表していると思われる文を本文の中から選んでください。

読んだ後で

質問9: 自分の国の文学作品で日本語に翻訳してみたいものがありますか。その作品の魅力はどんなところにありますか。また、その作品をみなさんの言語から日本語に翻訳するときに難しいのは、どんなことでしょうか。みんなで話し合ってみましょう。

<解答例>

質問1: (省略) 質問2: (省略)

質問3: (1) ロイヤル・タイラー(2001年)、(2) カレル・フィアラ(2008年)、(3) ジャン・エルキン(2008年秋予定)

質問4: (1) 日本語が母国語ではない。(2) 源氏物語を評価している。(3) 源氏物語を日本語以外の言語に翻訳した。(その他、日本文学または日本の研究者である、等)

質問5: カレル・フィアラ: 和歌の七五調のリズムが伝わるように、5行に分ち書きした。

ジャン・エルキン: 「宿世」のような言葉の翻訳で色々考えた。

ロイヤル・タイラー: 原文に忠実なすぐれた現代英語で物語を再現した。

質問6: カレル・フィアラ: 「人間のスケッチが深い」とほれこんだ。

ジャン・エルキン: 幼くして母を亡くした光源氏の孤独感に心ひかれた。

ロイヤル・タイラー: 洞察の深さに畏敬の念すらおぼえた。

質問7: (3) 質問8: 「(源氏物語は)まさに世界の古典文学なのだ。」 質問9: (省略)

参考ウェブサイト

- ・源氏物語千年紀委員会 <http://www.2008genji.jp/>
- ・京都府立図書館源氏物語千年紀関連事業 <http://www.library.pref.kyoto.jp/genji.html>
- ・京都府京都文化博物館コラム http://www.bunpaku.or.jp/exhi_genji-column.html
- ・源氏物語電子テキスト (渋谷栄一氏サイト) <http://www.sainet.or.jp/~eshibuya/>
- ・青空文庫 与謝野晶子訳源氏物語 <http://www.aozora.gr.jp/cards/000052/card362.html>

今回取り上げたテーマや練習案についてのご意見をお待ちしています。また、今回の記事を使って授業をしたときの様子や結果などを編集部までお寄せください。このコーナーの担当: 浜田盛男、境田徹 (関西国際センター日本語教育専門員)